

# AutomationDesk と DOORS の接続

- シームレスな開発を可能にする要件の追跡可能性 (トレーサビリティ)
- テスト要件、記述、結果の完全なリンク
- 電子制御ユニットのテストを DOORS から実行可能

特別な統合ソリューションにより dSPACE のテストソフトウェアである AutomationDesk が要件管理ツールである Telelogic DOORS® に接続されるようになったため、要件とテスト仕様を 2 つのツールをまたいで追跡することができます。また、DOORS のテスト仕様を AutomationDesk のテストプロジェクトに転送することができます。さらに、すべてのテスト結果を DOORS で使用できるので、開発プロセスの追跡および分析が容易になります。

## 2 つのツール間の橋渡し

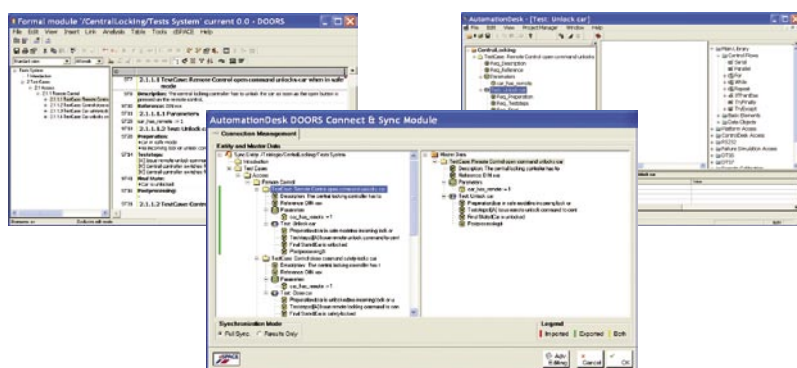
要件の追跡可能性 (トレーサビリティ) は、電子制御ユニット (ECU) 用のソフトウェア開発における重要な問題です。目的は、各プロジェクトの進捗状況をログおよび記録すること、および、ソフトウェア開発の全過程にわたりすべての要件が満たされているかどうかを判断することにあります。Telelogic DOORS などのツールは、あらゆる種類の要件の管理をサポートしています。

ソフトウェアテスト仕様 DOORS で処理されることも頻繁にあります。テスト要件の効率的な追跡可能性 (トレーサビリティ) とカバレッジ分析を実現するため、dSPACE は AutomationDesk を Telelogic 社の要件管理ソフトウェアである DOORS に接続しました。

## Connect & Sync Module による橋渡し

2 つのツールのデータ同期を可能にする AutomationDesk および DOORS 間のリンクは、AutomationDesk DOORS Connect & Sync Module です。DOORS の個々のオブジェクトは、AutomationDesk 内の同一構造をした特定の要素に対応しています。たとえば、DOORS のドキュメントを AutomationDesk の対応するプロジェクトに割り当てることができ、また、AutomationDesk のフォルダやテストシーケンスを DOORS のテスト仕様で割り当てることができます。事前定義されたテンプレートに基づいて各テスト仕様が同じ構造をしている場合、それらは Connect & Sync Module によって自動的に AutomationDesk の要素に変換されます。DOORS のデータを AutomationDesk にマッピングするためのルールは、ユーザ自身で定義します。DOORS のテスト仕様の構造とパラメータを使用できるので、AutomationDesk でゼロからテストの実装を行う必要はありません。

▼ AutomationDesk および DOORS 間のリンクの仕組み



## 双方向の交換

2 つのツールのデータと構造は Connect & Sync Module を介して同期化されますが、このモジュールはパラメータの交換にも使用されます。AutomationDesk のテストは、DOORS 内から直接実行することもできます。テストの実行が完了すると、AutomationDesk から DOORS にテスト結果 (合格、失敗、未定義など) を返します。AutomationDesk から戻されたテスト結果は、DOORS に表示し、ツールをまたいで追跡することができます。2 つのツール間がリンクされているということは、常に DOORS で要件の現在の状態を確認でき、関連するテスト結果を使用できることを意味します。

